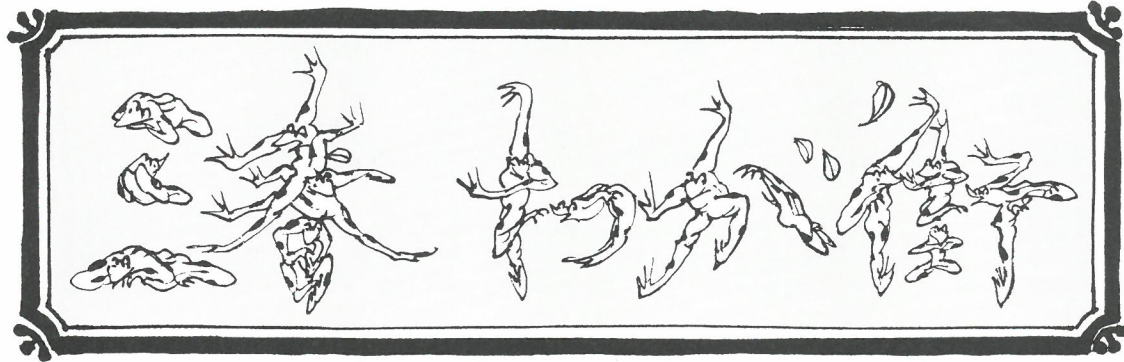




■コミュニティだより VOL.18

**特集** 『三春と防災  
生かせ/阪神大震災の教訓』

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会



**顔**

梅がとりもつ「まちづくり」  
—チイばあちゃんと漬物たち—

多田チイさん

**法** 蔵寺の「チイばあちゃん」をご存知ですか。

チイばあちゃんは、知る人ぞ知る三春の漬物名人なのです。

梅の実のなる季節になると、必ず彼女のおいしい梅の漬物の話が聞こえてきま

す。

檀家の間では、三十年來続けている毎年八月のお盆前に檀家総出で行う掃除のおり、一服の時にふるまわれる茄子の漬物の美味しさが評判で、漬物が食べたくて掃除に参加するという人

も多いということです。

また、寺参りに来た一般の方にもお茶受けに美味し漬物が出されるため、評判が評判を呼び、いつのまにか有名人ということになってしまったようです。



**漬**

物の美味しさは、人を選ばず、町で開催するウォークラリーでお寺に立ち寄った人達に振る舞われた干し梅の砂糖漬けは大評判で、次の日小学生の話題にもなったということです。

まさに美味しさは老若男女を問わないということです。そこで、早速美味しい漬物の漬け方を聞いてみました。

ところが、これといった秘伝などないそうで、すべてが手分量、目分量の世界だそうです。

それに、レシピなどと味気無いものでなく、お寺に来てくださればお話を聞きたいということでした。

**町**

の中にもチイばあちゃんに作り方を聞いて漬けている人達がたくさんいるそうで、毎年その方達が上手に漬けれないと自分の教え方が悪かったのではと反省するのだそうです。きつとこのやさしさが、漬物の味になっているのだと思います。



とにかく野菜をみると次々にアイディアがわいてくるということです。

三春の四季折々の野菜がチイばあちゃんの感性の中で美味しい漬物に変わってゆく様子は芸術のひとつかもしれない。

また漬物が、人の輪をとりもって人づくり町づくりに一役かっていることで、あらためてチイばあちゃんの役割の貴重さを実感しました。

**そ**

こで、ご家族である住職様に一番好きな漬物は何かと聞いたところ奈良漬ということで、これは本場ものに負けない絶品だということです。

一緒に皿に並べて食卓に出すとチイばあちゃんの奈良漬だけがうれてしまうようで、まるでどこかのコマースールを見ていたみたいだそうです。



ぜひ食べてみたいということをお話したところ、近い将来、朝茶会でも企画しますということでした。チイばあちゃんの漬物が食べたいと思う人は、今から朝早く起きる練習をしておきたいものです。

最後にこれから漬けてみたい漬物はお聞きしましたところ、親が漬けていた三春の三五八のこうじ漬けだそうで、懐かしい味に出会いたいそうです。

ところで漬物の美味しさのコツのコツをどうしても聞かせて欲しいとお願いしたところ、一番旬のものを漬けるのがポイントだそうです。

三春の野菜を愛し、人を愛するチイばあちゃんに梅の実の季節の今、会いに行ってみてはいかがでしょう。

## 特集

三春と防災  
生かせ！阪神大震災の教訓

阪神大震災から五ヶ月近くが経過し、被災地も徐々に復興しつつあります。しかし今なお避難所生活を続けている人も大勢います。大震災は、私達にさまざまな教訓を与えましたが、中でも、自然の力の前には「絶対」という言葉は通用しないということを強く思い知らされました。昔から、阿武隈山系は地盤が固いから地震に強いと言われ続けてきました。本当に大丈夫なのでしょう。

ここで改めて防災の面からわが町三春を見直してみたいと思います。

## ●一・二・三通のアンケート回収

広報委員会では、町民の皆さんにアンケートを実施し、十七～十八才の方から一・二・三通（男性：六一、女性：六二）の回答を得ました。

## ●七割近くが災害に無防備

「近くの避難場所を知っていますか」との問いには、知っているという方が二十九人（二四％）、知らないという方が九十四人（七六％）でした。

さらに、知っているという方には、具体的に場所をあげていただきましたが、学校、寺社、広場、公園などをあげる人が多く見られました。

次に、「地域で避難訓練や防災の話し合いをしていますか」との問いには、している：十八人（一五％）、していない：七十六人（六二％）、わからない：二十九人（二三％）でした。

また、「災害に備えて日頃から何か準備をしていますか」と聞いたところ、して

いる四三人（三五％）していない：八十八人（六五％）でした。

準備をしている人の中には、非常持ち出し用品の用意をしているという方が多数あり、中には「水、缶詰、米、粉、うどん、調味料、ろうそく、木炭、非常用毛布を常備している」という方もありました。他に、電気が止まると水

が出ないので、お風呂の水を夜流さないようにしている、などの回答がありました。

## ●町は防災計画を見直し中

こうしたアンケートの結果を受けて、三春町の総務課と保健環境課に取材しました。



まず、現在の防災計画については、昭和五十四年度の防災計画が基本になっていますが、だいぶ古くなっているの、国、県に準じて町で実情をみて見直し作業をしているところだということです。

今後の防災計画の見直しのポイントは、①指揮命令系統②地域の自主防災組織（区長会等）の訓練③行政と住民が一体となった防災体制の確立の三点です。

食糧や飲み水に関しては、現在、町としての備蓄はしていませんが、今回の見直しに際し、避難所の指定をし、そこに食糧を備蓄できないかなどもう一度計画の練り直しが必要とのことでした。

次に、地質的に三春町は安全なのかという点については、現在のところ活断層は確認されていないとのこと。しかし、絶対安全というわけではありません。

## ●食糧、飲み水の備蓄は各自で

飲み水の確保という点で井戸水の役割が重要になると思いますが、井戸水の水質検査について保健環境課に聞いたところ、町内にはたくさん井戸があるが、町では全てを把握してはいないので、基本的には水質の管理は各自で行っていただきたいとのこと。検査結果によっては消毒剤等の相談に応じてくれるそうです。

これは三春から神戸の被災地へボランティアとして行った方の日記です。これを読んでもどのように皆さんは感じるでしょうか。

二月十一日（土）

初日のため、やや緊張気味に出勤し、電車を乗り継いで長田区へ向った。電車の車窓から被災した風景を見ると、身の引き締まる思いである。

二月十二日（日）

昨日は、あまり寝付かれなかった。朝晩は三春より暖かく過ごしやすそう。

仕事の内容は、思ったほど難しくはなさそう。写真を撮ったりしている人達に出会ったがその心境を疑う。

二月十三日（月）

今日から仕事を行う。みんな「気を引き締めてからね」の雰囲気。ここでの楽しみは食事のことだけである。夜半にチャルメラの音。町にも活気が出てきた。

二月十四日（火）

トイレは水が出ないため古新聞と汚物の山である。水の有難さをつくづく感じる。ここにいると

日にちの感覚が鈍ってくる。そういえば今日はボランティアだった。

二月十五日（水）

ここでの生活にもだいぶ慣れてきた。銭湯に行くことにした。すごい行列で三十分待ちでやっと風呂に入れた。

ここにもマスコミがいた。いい加減にしてほしいものだ。

二月十六日（木）

ここにいると周囲のことに気が付かなくなっている。「夢の中にいるようだ」と言った市民の言葉を思い出した。ボランティアの人数も増えてきている。みんな大学生のようで真剣な表情である。

二月十七日（金）

今日は最終日。引き続きをするまで仕事を頑張ろう。一週間もいると仕事や生活にも慣れ、もったいなく感じてあげたいと思うようになってきた。

この災害を教訓に、もう一度災害について考えてみてはいかがですか。そして、自分ができる最大限のことは何か考えてみて下さい。

## 阪神大震災 ボランティア日記

三春小・中

# 全校あげての避難訓練実施

## 落ち着いて迅速な行動が第一

### ●過去の教訓を生かし訓練

非常災害に際し、多くの子供達を抱える学校ではどのような訓練をしているのでしょうか。三春小学校と三春中学校に取材に伺いました。

まず、三春小学校では「指示に従って落ちついて迅速に避難すること」を目的とし、年三回の避難訓練を実施しています。

第一回の六月は、出火を想定し安全に素早く戸外に避難。第二回の十二月は、地震を想定し机の下にもぐり地震が治まるのを待ち、次に校舎倒壊の危険や出火を想定し、戸外に避難する訓練をしています。第三回の二月も、出火を想定した

避難訓練といった内容です。

次に、三春中学校の状況ですが、「不慮の災害から人命を守る精神を養う。非常時の際に、敏速で沈着な行動がとれる態度を育成する。非常事態における集団行動

### 三春は本当に安全なのか？

#### アンケートの結果から

アンケートでは、たくさん意見・感想をいただきました。最後に、皆さんの生の声を掲載し、災害について考えたいと思います。

#### ●地震

災害体験は、地震では宮城県沖地震が多く、「まず火を消し、竹藪に逃げた」「道路に亀裂が入った」などで、

#### ●火事

火事の体験では、自宅や三春小・中学校の火事のことが多く、「自分の通っている学校が目前で焼けるの

#### ●水害

この他、大雪や戦災体験もありましたが、最も多かったのは水害で、床下浸水や土砂崩れで家が下敷きになったというものです。

### ●防災の心構えは子供のときから

「災害は何時発生するかわからない」と言われますが、大勢の児童生徒を預かる学校では、児童生徒の生

命、身体を守ることが何よりも優先。どちらの校長先生も、「今回の阪神大震災の教訓を十分に生かし、さらに子供達の災害への関心を高めたい」と話しておられました。

学校の取材を通じ、災害に対する心構え、備えといった基本的なことを子供の時からきちんと身に付けておくことが、まずは防災の出発点と感じました。

### ●絶対的な安全はない

しかし、「三春でも絶対安全」ということはないという人もおり、「そう大きな混乱

は起きないと思うが、最悪を想定した対策は検討すべき」「身近なこととして捉え、家族や地域で防災の話し合いの場を作りたい」「一人ひとりが防災について認識することが大事」などの慎重な意見を持つ人もいます。

最後に、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## 住宅の点検はこまめに！

### ―お宅の土台は大丈夫ですか？―

今回の大震災で、古くても崩壊しなかった住宅と、新しくても崩壊してしまっ

#### 「排水の点検」

台所や風呂場の排水はきちんと流れていますか。側溝がつまっていますと水が流れず、土台の土が徐々に流されてしまった例もあります。

#### 「雨どいの点検」

雨どいの中に枯葉やごみがつまっていますか。年に二回は点検しましょう。

#### 「床下の通気性」

風窓の前にものを置いて塞いでいませんか。通気性

住宅も日頃の手入れが大切です。自分でできることはこまめに手入れをすることが、災害の被害を最少にとどめることにつながります。

### 非常持ち出し品チェックリスト

- 飲料水（水筒）
  - 食糧（カンパン、缶詰）、缶切り、ナイフ
  - ラジオ、懐中電燈、予備の電池
  - 軍手、防災頭巾、ヘルメット、下着、ちり紙、シート、ロープ
  - 医薬品
  - 笛、携帯用ブザー
- （万が一閉じ込められたときに、自分の居所を示すために役立つ）
- ※赤ちゃんのいる家庭では
- 粉ミルク、ほ乳びん、紙おむつ
- などを準備しておきましょう。



# 三春女一人

## 〓 丈六焼き 〓

初夏の風に乗って丈六焼きという焼き物が、江戸時代から大正時代の三春町で作られていたという話が聞こえてきました。

そこで思い立ち、三春の歴史民俗資料館に問い合わせたところ、たくさんの丈六焼きの作品や資料を、埋蔵文化財整理室の中で見せていただきました。

この貴重な歴史の遺産は、窯元だった江幡氏の所蔵していたもので、素朴な中に暖かみのある作品でした。丈六焼きは、現在の丈六で作られていたためその名がついたもので、もともと三春藩の御用窯だったので、お城の瓦や殿様の使うお茶道具などを焼いていたのですが、手があいた時間に焼いていた火鉢や人形、祠などが、明治になると中心になったということです。

残念ながら明治以降、藩

という大きな後ろ楯を失った丈六焼きは、大正時代に歴史の中に消えてしまったとのことでした。

現在、丈六焼きは、三春城の鯉（一部破損）、八幡神社、馬頭観音の狛犬、安達郡白沢村岩角山の撫で牛、祠などが多くの作品として残っているということでした。特に白沢村の和田山常光院岩角寺で、参詣の人達にお礼と一緒に配ったという撫で牛は蒐集家にとって欲しくてたまらないもののようです。

もしかしらこの文章を読んでいるあなたの家の押し入れの隅に転がっているかもしれない。みつけたら家宝として祀ってみる価値は大です。

また、大神宮にも田村地方の氏神様を安置した祠がありますし、他にも裏山や



〓 丈六焼きの祠（ほくら）と人形



〓 大神宮の祠（ほくら）

古い井戸の近くで、祠を目にすることができるとのことでした。

こうして丈六焼きを調べること、歴史の遺産が身近にありながら全然気づいていないということに驚かされ、三春に住んでいながら三春を知らないということを感じ知らされました。

皆さんも初夏の陽ざしの中で、三春の先人達の残した工芸品を鑑賞し、遠い三春の時間を散策してみたいかがですか。

追伸：毎年だるま市で売られている「まさる」の土鈴も、元は丈六焼きで焼いていたそうです。



三春の町に似合った憩いの場が磐州通りに出来ました。

店の名前は、ふれあいサロン「ななかま」。昔ながらの蔵を利用し、古い物と新しいものをうまく調和させた、落ち着いた雰囲気のお店です。知らず知らずのうちに長居してしまいそうな、そんな感じです。利用客の反応は、入りやすく、待ち合わせ場所としても大いに利用できそうとか。

お昼には会社勤めの方の食事や休憩に。午後は若い人達の楽しい笑顔のこぼれる場所です。

皆さんもちょっと立ち寄ってみてはいかがでしょう。か。

（営業時間 10時～21時）  
（定休日 月曜日）



〓 落ち着いた雰囲気の店内

## 部会だより

### 〔環境部会〕

現在、環境部会は、花いっぱい運動や、ゴミ問題のより良い解決に向けた活動に取り組んでいます。

こうした活動の外に、今年度は、秋の文化祭に向けて、町民の皆さんが大勢参加していただけるような事業を計画しています。

それは、毎日、各家庭から大量に出るゴミを、何かに再利用したいという考えを基にした企画『廃品による「生活アイデア展」』と、町の中で見かける空き缶を回収し、きれいにできない

回収し、きれいにできない

だろうかという考えを基にした企画「空き缶積み大会」などです。

今年には特に、十月に国体を控えていますので、町民の皆さん一人ひとりの参加で、大きな輪となり、町内の美化運動に寄与できればと考えています。

皆さんも、家族全員で、今から秋に向けて、廃品の再利用や空き缶集めに、是非取り組んでいただければと思います。

なお、実施内容・日時等については、詳細が決定次第、事務局だよりなどでお知らせいたします。

### 〔街並部会〕

街並部会では「三春まちめぐりマップ」を今春発行

いたしました。皆様には各戸一部ずつ配布いたしました。どうぞご利用下さい。



## 編集後記

今回の第18号の特集は何にしようかと問われた時、広報委員のほとんどが震災対策だろうと言った。

「三春町は今まで震災が無かったから今後も無いよ」という言葉は今まで何回も聞いたが、保証してくれる人はいない。

しかし、大きな火災は三春町史にも載っているのだから「備えあれば憂いなし」。自分の身は自分で守ることを心掛け、可能な限り備えをすることだろうと思う。なかなか難しいことだが、私も努力しようと決心した。（松本）

今回の特集は「三春と防災」というテーマになりました。そこで町民の皆様の声を参考にまとめてみました。

アンケートを実施したり、関係機関に出向いて係の方にお伺いいたしました。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われます。だからこそ日頃からの安全対策と、いざという時、冷静に行動できる知識を身につけておくことが大切なのではないでしょうか。（斎藤）

コミュニティだより

「三春わが街」第十八号

発行日 平成7年6月1日  
発行 三春まちづくり協会  
編集 三春まちづくり協会  
広報委員会  
三春町字大町一七八  
(六二) 三九八